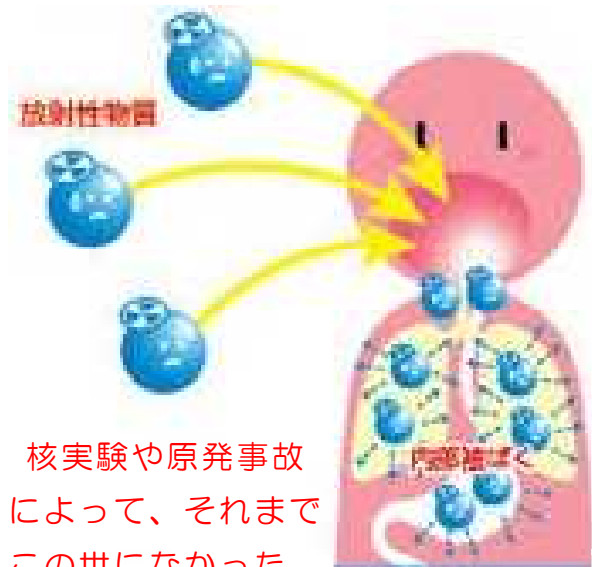


2011年3月に起きた福島第一原発事故は収束せず、放射能汚染は今も静かに広がっています。事故から30年以上たったチェルノブイリからは深刻な健康被害が報告されています。そのほとんどは食べ物からの内部被ばくによるものであると言われています。



核実験や原発事故によって、それまでこの世になかった

人工の放射性物質を私たちは日常的に摂取するようになりました。

原発事故後、体内に取り込むリスクは格段に高くなり、国が安全という基準値は事故前の摂取量と桁違いです。

5.10.2017 農林水産省

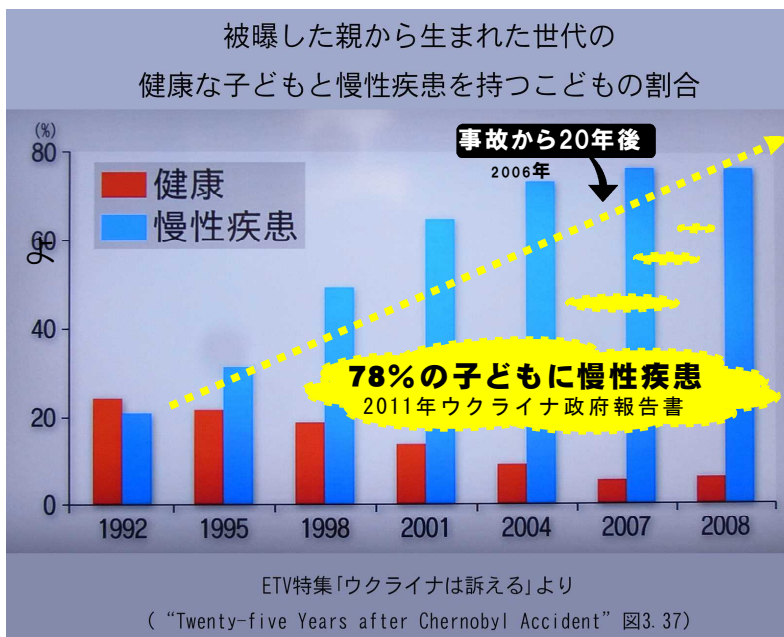
今でも50以上の国で日本の食品に証明書

を求めたり、輸入停止にしています。

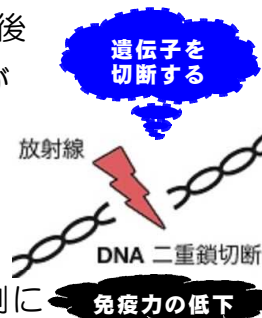
	単位	事故前 (H20 年度) の 食品放射線量*	厚生労働省 H24 年度基準値	
上水	Bq/L	0.00004	10	25 万倍
汚染は12都県にわたり東京都葛飾区で0.0073ベクレル(2016年6月)				
米	Bq/kg	0.012	100	8,300 倍
根菜	Bq/kg	0.008	100	12,500 倍
葉菜	Bq/kg	0.016	100	6,300 倍
牛乳	Bq/L	0.012	50	4,200 倍
魚類	Bq/kg	0.091	100	1,100 倍
製茶 (乾燥)	Bq/kg	0.240	100	420 倍
日常食	Bq/人/日	0.019		

「健康に影響ない」
っていうけど本当？

*セシウム 137 の値です。厚生労働省基準値はセシウム測定値です。
福島原発事故前は明確な基準値がなかったので全国の食品のセシウム平均値を示した。
出典：日本分析センター平成 20 年度事業報告書より。
<http://www.jcac.or.jp/uploaded/attachment/57.pdf>



チェルノブイリでは事故後年を追うごとに病気の子が増えてきました。線量が低くても長期間、放射線を浴び続ければ世代をまたがって健康被害が深刻になってゆく可能性を示唆しています。



福島の事故後も同じように、甲状腺ガンだけでなく様々な病気が増えている、疲れやすい、集中力が続かない、頭痛、鼻血、風邪が長引くといった何気ない体調不良の報告が多くあります。



放射能汚染は福島県だけでなく、東日本一帯に広がり、チェルノブイリより高汚染の地域にも多くの人々が暮らしています。西日本にも様々な形で放射性物質が流れ込んでいます。

